

熊本地震犠牲者追悼式

4月14日、県庁で行われた県主催の犠牲者追悼式で、増田敬典さん（沢津野）が遺族を代表し、追悼の言葉を述べられました。一部抜粋して掲載します。

「熊本地震の発生から早いもので3年が経過しました。私は、地震で60年連れ添った妻を亡くしました。

妻を見送ったあと、息子が東京で一緒に暮らそうと声をかけてくれましたが、村の仮設住宅でひとり暮らしすることを選びました。60年けんか一つせず妻と過ごしてきた私たちのふるさとしてきた私たちのふるさとして。亡き妻のそばを離れず、共に暮らしたいと思いました。

私は、今年で82歳になります。世話をするより、されることが多いかもしれませんが、それでも、自立した生活を送り、少しでも村の再建に役に立ちたいと強く思っています。高齢者が前を向くことで、復興に頑張



追悼の言葉を述べる増田敬典さん

る若い人たちの励みになればとの思いからです。

人命救助に全力であつたていただいた、自衛隊、警察、消防の皆さま、復旧・復興に力を尽くされている全ての皆さまに、あらためて感謝申し上げます。

南阿蘇村は、住みよい素晴らしいところです。悲しみは尽きませんが、亡き妻のためにも、微力ながら復興の力になりたいと思いません。

最後に、熊本地震で犠牲となられた全ての皆さまに哀悼の意をささげ、遺族代表の言葉といたします。」

南阿蘇村くらしの中の防災セミナー

4月13日、熊本地震を振り返り防災についての知識や技術を学ぶ「くらしの中の防災セミナー」（村主催）が、モンベル南阿蘇店で開催されました。

当日は地域の消防団員など約30人が参加。映像で熊本地震を振り返り、講師の宮崎賢哉さん（一般社団法人防災教育普及協会事務局長）の講義のもと、災害発生時の注意点や日頃からの備えについて確認しました。

グループワークでは、災害発生時にとるべき行動が描かれたカードを瞬時に判断して選ぶ「減災アクションカードゲーム」や、周囲と助けあうために大切なコミュニケーションの訓練などに取り組んだほか、モンベル南阿蘇店の山本幸一店長から災害時に役立つ紐の結び方などの指導を受けました。



カードで災害時の行動を確認する参加者

東下田川2砂防えん堤新設工事起工式

熊本地震や地震後の降雨により土砂災害の危険性が高まっている阿蘇地域で、国が砂防えん堤を整備する阿蘇山直轄砂防事業において、本村で初めて着手する砂防えん堤工事の起工式が、5月14日に現地（中松、夜峰山付近）で行われました。当日は、工事施工者（株）



地鎮祭後には熊本復興事務所の工事説明や、工事施工業者代表者あいさつなどがありました。

藤本建設工業）、地権者、地域住民代表のほか、熊本復興事務所、阿蘇地域振興局、村などの関係者約40人が立ち合い、工事の安全と無事の完了を祈願しました。

今回の工事は、幅約308m、高さ約13mで4万m³の土石流を止める「東下田川2砂防えん堤」の一部を施工するもので、工期は令和元年11月までの予定。この砂防えん堤は国道325号線や中松地区などを土砂災害から守る目的で建設され、令和3年度の実体完成を目指して工事が進められます。